

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												旋毛虫症	Vet Parasitol 2008; Epub: 4590	1990年～2006年のブルガリアにおける旋毛虫症の疫学調査結果である。145件のアウトブレイクと238例の散発症例が確認され、総計7544例が旋毛虫に汚染された肉を摂食し、4108例が感染し、2237例が発症したと判断された。そのうち入院は1014例、死亡は2例であり年間発症率は人口10万人あたり0.27～7.40であった。アウトブレイクの主な原因はイノシシ肉(57件)と豚肉(67件)であった。
												レンサ球菌感染	J Infect 2008; 57: 392-396	ブタ連鎖球菌感染症の死亡のリスク因子を特定することを目的とした後ろ向きコホート研究が、2005～2007年のタイ北部のターシャリーケア病院のブタ連鎖球菌感染症患者を対象に実施された。Cox's回帰分析により、敗血症性ショック、ALT上昇が死亡のリスク因子であることが明らかになった。
												エボラ出血	ProMED-mail2009012 3.0293	900561に同じ
212	2009/4/20	90081	CSL ベーリン グ	フィブリノゲン加第XIII因子 人血液凝固第XIII因子	人血液凝固 第XIII因子	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストラリア	有効成分	有	無	無	異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	American Society of Hematology/ Press Releases 2008年8月28 日	81013に同じ
												バベシア症	Clin Infect Dis 2009; 48: 25-30	81052に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	HPAweb February 17, 2009	90183に同じ
213	2009/4/20	90082	CSL ベーリン グ	乾燥pH4処理人免疫グロブリン	ペプシン	ブタ胃粘膜	米国	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
214	2009/4/20	90083	CSL ペーリン グ	抗破傷風人免疫グロブリン	破傷風抗毒素	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストラリア	有効成分	有	無	無	異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	American Society of Hematology/ Press Releases 2008年8月28 日	81013に同じ
												バベシア症	Clin Infect Dis 2009; 48: 25-30	81052に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	HPAweb February 17, 2009	90183に同じ
215	2009/4/20	90084	CSL ペーリン グ	乾燥pH4処理人免疫グロブリン	人免疫グロ ブリンG	ヒト血液	ドイツ	有効成分	有	無	無	異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	American Society of Hematology/ Press Releases 2008年8月28 日	81013に同じ
												バベシア症	Clin Infect Dis 2009; 48: 25-30	81052に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	HPAweb February 17, 2009	90183に同じ
216	2009/4/20	90085	中外製 薬	トラスツズマブ(遺伝子組換え) レノグラスチム(遺伝子組換え) エボエチン ベータ(遺伝子組換え) トシリズマブ(遺伝子組換え)	チャイニーズ ハムスター卵 巣細胞	チャイニー ズハムス ター卵巢	不明	製造工程	無	無	無			
217	2009/4/20	90086	中外製 薬	トシリズマブ(遺伝子組み換え) 注	ガラクトース	ウシ乳	米国、 ニュージー ランド	製造工程	無	無	無			
218	2009/4/20	90087	中外製 薬	レノグラスチム(遺伝子組換え) エボエチン ベータ(遺伝子組換え)	ウシ胎仔血 清	ウシ血清	米国、オース トラリア、 ニュージー ランド	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
219	2009/4/20	90088	中外製薬	レノグラスチム(遺伝子組換え) エポエチン ベータ(遺伝子組換え)	DMEM/F12	ウシ乳	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
220	2009/4/20	90089	中外製薬	トラスツズマブ(遺伝子組換え)	ブタラード ウォーター	ブタ脂肪	米国、カナダ	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	OIE Press Release 23Dec2008	80963に同じ
221	2009/4/20	90090	中外製薬	トラスツズマブ(遺伝子組換え)	ペブシン	ブタ胃液	米国	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	OIE Press Release 23Dec2008	80963に同じ
222	2009/4/20	90091	中外製薬	トラスツズマブ(遺伝子組換え)	プリマトン HS/UF	ウシ脾臓、 心臓、ウマ 脾臓、脛 肉、ブタ ラード ウォーター	米国、カナダ	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	OIE Press Release 23Dec2008	80963に同じ
223	2009/4/20	90092	中外製薬	トラスツズマブ(遺伝子組換え) ストレプトコックスピオゲネス(A 群3型)Su株ペニシリン処理凍 結乾燥粉末	パンクレアチ ン	ブタ膵臓	米国、カナ ダ、日本、 フランス	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	FDA/CDER Meeting of the Antiviral Drugs Advisory Committee 2008年12月2 日	80963に同じ
												ウイルス感染	OIE Press Release 23Dec2008	80963に同じ
224	2009/4/20	90093	中外製薬	レノグラスチム(遺伝子組換え) エポエチン ベータ(遺伝子組換 え)	ブタインスリ ン	ブタ膵臓	米国、カナ ダ	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	FDA/CDER Meeting of the Antiviral Drugs Advisory Committee 2008年12月2 日	80963に同じ
												ウイルス感染	OIE Press Release 23Dec2008	80963に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
225	2009/4/20	90094	中外製薬	レノグラステム(遺伝子組換え)	ヒトトランスフェリン	ヒト血漿	不明	製造工程	有	無	無	リケッチア症	CDC/MMWR 2008; 57: 1145-1148	80995に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPS Weekly Report 2009; 43: 78	90183に同じ
												マールブルグ出血熱	CCDR weekly 2009.2.13 138304	米国CDCは2008年にコロラドの病院で治療を受けた1例がマールブルグ出血熱に感染していたことを2009年1月末に確認した。米国における初の症例。当該症例はウガンダを訪問中にオオコウモリが生息する洞窟を訪問し、感染したとされている。
												ウイルス感染	ProMED-mail20090129.0400	90003に同じ
												BSE	BMC Vet Res 2008; 4: 14	90062に同じ
												バベシア症	Clin Infect Dis 2009; 48: 25-30	81052に同じ
226	2009/4/22	90095	持田製薬	硫酸フラジオマイシン/結晶トリプシン インターフェロン ベータ	トリプシン	ウシ膵臓	ニュージーランド、オーストラリア、ブラジル	有効成分製造工程	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Blood, Prepublished online 2008年7月22日	81005に同じ
												BSE	PLoS Pathogens 2008; 4: e1000156	80944に同じ
227	2009/4/22	90096	持田製薬	インターフェロン ベータ	インスリン	ウシ膵臓	—	製造工程	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Blood, Prepublished online 2008年7月22日	81005に同じ
												BSE	PLoS Pathogens 2008; 4: e1000156	80944に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
228	2009/4/22	90097	持田製薬	インターフェロン ベータ	ウシ血清	ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Blood, Prepublished online 2008年7月22日	81005に同じ
												BSE	PLoS Pathogens 2008; 4: e1000156	80944に同じ
229	2009/4/22	90098	持田製薬	インターフェロン ベータ	トリブシン	ブタ臓臓	—	製造工程	有	無	無	エボラ出血	Reuters (January 23, 2009)	90299に同じ
230	2009/4/22	90099	持田製薬	インターフェロン ベータ	カルボキシペプチダーゼ	ブタ臓臓	米国	製造工程	有	無	無	エボラ出血	Reuters (January 23, 2009)	90299に同じ
231	2009/4/22	90100	持田製薬	インターフェロン ベータ	人血清アルブミン	ヒト血液	日本	製造工程	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Blood, Prepublished online 2008年7月22日	81005に同じ
												ウイルス感染	Proc Natl Acad Sci USA 2008; 105: 14124-14129	80995に同じ
												デング熱	N Engl J Med 359(14):1526-1527 Oct.2, 2008	シンガポールにおける輸血によるデング熱出血感染症: 2007年7月に献血をしたデング熱ウイルス(2型)無症候性ドナーから赤血球及び新鮮凍結血漿レシピエント(2例)がデング熱ウイルス(2型)陽性であることが判明し、血小板レシピエント(1例)も二次性デング熱感染について血清学的エビデンスがあった。
												感染	日本医真菌学会雑誌 2008; 49: 92 第52回 日本医真菌学会総会 2008年9月10-11日	81005に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	WHO/EPR 2008年10月 13日	81005に同じ
												細菌感染	CDC/MMWR 2008; 57: 1145-1148	80995に同じ
												ウイルス感染	IASR 2008; 29: 310-312	81005に同じ
												細菌感染	JAMA 2008; 300: 2263- 2270	81005に同じ
												エボラ出血	PLoS Pathogens 2008; 4: e1000212	81005に同じ
												ハンセン病、ら い腫型	Eurek Alert November 24, 2008	散在性らい腫性ハンセン病で死亡した患者の 検体の遺伝子分析より、ハンセン病の唯一の 病原菌と考えられていたMycobacterium leprae に加えて、新書の病原菌、M. lepromatosisを確 認した。
												細菌感染	日本感染症学 会西日本 地方会学術 集会 第78回 2008年12月5 -6日 063	81005に同じ
												レトロウイルス	日本ウイルス学 会第56回学 術集会 2P111	日本でのXMRV感染のスクリーニングを行い、 前立腺がん患者では2/30例、献血者では 5/120名が抗体陽性であった。さらに抗体陽性 前立腺がん患者血清1検体よりウイルス核酸を 検出した。日本国内の前立腺がん患者集団中 にXMRV感染の存在が示唆された。
												異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	HPAweb February 17, 2009	90183に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
232	2009/4/22	90101	持田製薬	ウロキナーゼ	ウロキナーゼ	ヒト尿	中国	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Blood, Prepublished online 2008年7月22日	81005に同じ
												ウイルス感染	Proc Natl Acad Sci USA 2008; 105: 14124-14129	80995に同じ
												感染	日本医真菌学会雑誌 2008; 49: 92 第52回 日本医真菌学会総会 2008年9月10-11日	81005に同じ
												ウイルス感染	WHO/EPR 2008年10月13日	81005に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	FEBS Letters 2008; 582: 3161-3166	81005に同じ
												ウイルス感染	IASR 2008; 29: 310-312	81005に同じ
												細菌感染	JAMA 2008; 300: 2263-2270	81005に同じ
												エボラ出血	PLoS Pathogens 2008; 4: e1000212	81005に同じ
												ハンセン病、ら い腫型	Eurek Alert November 24, 2008	90100に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												細菌感染	日本感染症学会西日本地方会学術集会 第78回 2008年12月5-6日 063	81005に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Emerg Infect Dis 2008; 14: 1406-1412	81005に同じ
												レトロウイルス	日本ウイルス学会第56回学術集会 2P111	日本でのXMRV感染のスクリーニングを行い、前立腺がん患者では2/30例、献血者では5/120名が抗体陽性であった。さらに抗体陽性前立腺がん患者血清1検体よりウイルス核酸を検出した。日本国内の前立腺がん患者集団中にXMRV感染の存在が示唆された。
233	2009/4/22	90102	日本臓器製薬	低分子ヘパリン	低分子ヘパリン	ブタ腸粘膜	中国	有効成分	無	無	無			
234	2009/4/22	90103	日本臓器製薬	—	培養ヒトリンパ芽球(JM細胞株)	ヒト(急性リンパ性白血病患者)末梢血	ドイツ	製造工程	無	無	無			
235	2009/4/22	90104	日本臓器製薬	—	抗ヒトリンパ球ウサギ免疫グロブリン	培養ヒトリンパ芽球免疫ウサギ血清	ドイツ、ハンガリー	有効成分	無	無	無			
236	2009/4/22	90105	日本臓器製薬	—	ヒト胎盤ホモジネート	ヒト胎盤	ドイツ	製造工程	無	無	無			
237	2009/4/22	90106	日本臓器製薬	—	ヒト赤血球	ヒト血液	ドイツ	製造工程	無	無	無			
238	2009/4/22	90107	日本臓器製薬	—	ウシ胎児血清	ウシ血液	米国、ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
239	2009/4/22	90108	日本臓器製薬	—	ウシ乳児血清	ウシ血液	米国、ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
240	2009/4/22	90109	株式会社大塚製薬工場	—	ヘパリンナトリウム	健康なブタの小腸粘膜抽出物	米国、カナダ、中国	有効成分	有	無	無	レンサ球菌感染	J Infect 2008; 57: 158-161	90080に同じ
												ブドウ球菌感染	Ugeskr Laeger 2008; 170: 3436-3437	90080に同じ
												インフルエンザ	ProMED-mail20081125.3715	90080に同じ
												レンサ球菌感染	Emerg Med J 2008; 25: 607-608	90080に同じ
												エボラ出血	WHO/EPR 2009年2月3日	90056に同じ
241	2009/4/22	90110	武田薬品工業	注射用乾燥セルモロイキン(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	人血液	日本	添加物	有	無	無	B型肝炎	J Hepatol 2008; 48: 1022-1025	81039に同じ
												E型肝炎	Transfusion 2008; 48: 1368-1375	81038に同じ
												B型肝炎	Transfusion 2008; 48: 1602-1608	81038に同じ
												バルボウイルス	Lab Hematol 2007; 13: 34-38	81038に同じ
												E型肝炎	Vox Sanguinis 2008; 95: 94-100	81038に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
242	2009/4/22	90111	武田薬品工業	注射用乾燥セルモロイキン(遺伝子組換え)	ウシの乳由来成分	ウシの乳	オーストラリア、ニュージーランド、アメリカ	製造工程	無	無	無			
243	2009/4/23	90112	明治乳業	沈降B型肝炎ワクチン(huGK-14細胞由来)	HBs抗原たん白質(huGK-14細胞由来)	ヒトの肝臓	日本	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	WHO/EPR 2008年10月13日	81005に同じ
												狂犬病	Emerg Infect Dis. 2008 Dec (Epub ahead of print)	新たな狂犬病ウイルス変異体の同定: アメリカのカリフォルニアで狐にかまれたメキシコ移民男性が2008年3月に死亡した。脳のサンプルから単離したウイルスの塩基配列の解析より昆虫食コウモリの狂犬病ウイルスクレイドの特徴的分子構造を有するが、遺伝的多様性としては5%あり、高度に保存された321番目のヒステジジンがグルタミンに変異していることから、新たな狂犬病ウイルスとして分類した。
												ウイルス感染	IASR 2008; 29: 310-312	81005に同じ
												細菌感染	日本感染症学会東日本地方会学術集会 第57回 2008年10月23-24日	Lactococcus garvieaeが起炎菌と考えられる腰椎椎体炎の1例。当該菌による骨髄炎は2000年に1例報告されて以来、世界第2例目である。
												ハンセン病、らい腫型	Am J Clin Pathol, 130; 856-864, 2008	広範性らい腫らい(DLL)により死亡した患者からMycobacterium属の新種が確認された: DLLにより死亡した1症例から肝組織、他の1症例から皮膚組織から抗酸菌のDNAを抽出し16Sribosomal RNA遺伝子および他の5つの遺伝子の相同性を解析した。その結果。らい腫(M. leplae)と共通の起源ではあるが、そこから分岐した別のmycobacteriaであることからM. lepromatosisと命名した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												細菌感染	日本感染症学会西日本地方会学術集会 第78回 2008年12月5-6日 063	810051と同じ
												ウイルス感染	ProMED-mail20090129-0400	900031と同じ
												レトロウイルス	日本ウイルス学会第56回学術集会 2P111	901011と同じ
												細菌感染	日本細菌学会第82回総会 P2-182	Anaplasma phagocytophilumによるアナプラズマ症の本邦初の症例。2002～2003年の高知県で日本紅斑熱が疑われた18例の血餅から、2例で、A. phagocytophilumに特異的なp44/msp2外膜蛋白遺伝子群のPCR産物が検出された。
244	2009/4/23	90113	明治乳業	沈降B型肝炎ワクチン(huGK-14細胞由来)	ウシ胎児血清	ウシの血液	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
245	2009/4/23	90114	明治乳業	沈降B型肝炎ワクチン(huGK-14細胞由来)	ウシ血清アルブミン	ウシの血液	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
246	2009/4/23	90115	明治乳業	沈降B型肝炎ワクチン(huGK-14細胞由来)	DNase 1	ウシの臓腑	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
247	2009/4/23	90116	明治乳業	沈降B型肝炎ワクチン(huGK-14細胞由来)	ウサギ抗ヒト血清アルブミン交代	ウサギの血液	日本	製造工程	無	無	無			
248	2009/4/23	90117	明治乳業	沈降B型肝炎ワクチン(huGK-14細胞由来)	マウス抗HBsモノクローナル抗体	マウスの血液	日本	製造工程	無	無	無			
249	2009/4/23	90118	明治乳業	沈降B型肝炎ワクチン(huGK-14細胞由来)	トリブジン	ブタの臓腑	アメリカ	製造工程	有	無	無	エボラ出血	WHO/OIE 2008年12月23日	フィリピン。2007～2008年に養豚場のブタの死亡率が上昇したことをうけ、政府の調査が実施され、ブタ繁殖・呼吸器障害症候群(PRRS)ウイルス強毒株およびEbola-Restonウイルスの感染が確認された。ブタからEbola-Restonウイルスの検出は初めてである。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
250	2009/4/23	90119	化学及血清療法研究所	フィブリノゲン加第ⅩⅢ因子	人フィブリノゲン	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	Proc Natl Acad Sci USA 2008; 105: 14124-14129	80995に同じ
												ウイルス感染	ProMED-mail20081028.3409	80995に同じ
												細菌感染	CDC/MMWR 2008; 57: 1145-1148	80995に同じ
												ウイルス感染	ProMED-mail20090129.0400	90003に同じ
												レトロウイルス	CDC/Travelers' Health 2009年2月4日	90003に同じ
												コレラ	CDC/Travelers' Health 2009年2月4日②	90003に同じ
251	2009/4/23	90120	化学及血清療法研究所	フィブリノゲン加第ⅩⅢ因子	人血液凝固代ⅩⅢ因子	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA/News 2009年2月17日	90068に同じ
												ウイルス感染	Proc Natl Acad Sci USA 2008; 105: 14124-14129	80995に同じ
												ウイルス感染	ProMED-mail20081028.3409	80995に同じ
												細菌感染	CDC/MMWR 2008; 57: 1145-1148	80995に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	ProMED-mail20090129-0400	90003に同じ
												レトロウイルス	CDC/Travelers' Health 2009年2月4日	90003に同じ
												コレラ	CDC/Travelers' Health 2009年2月4日②	90003に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA/News 2009年2月17日	90068に同じ
252	2009/4/23	90121	化学及血清療法研究所	トロンビン フィブリノゲン加第ⅩⅢ因子 乾燥濃縮人活性化プロテインC	トロンビン	ヒト血液	日本	有効成分 製造工程	有	無	無	ウイルス感染	Proc Natl Acad Sci USA 2008; 105: 14124-14129	80995に同じ
												ウイルス感染	ProMED-mail20081028.3409	80995に同じ
												細菌感染	CDC/MMWR 2008; 57: 1145-1148	80995に同じ
												ウイルス感染	ProMED-mail20090129.0400	90003に同じ
												レトロウイルス	CDC/Travelers' Health 2009年2月4日	90003に同じ
												コレラ	CDC/Travelers' Health 2009年2月4日②	90003に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA/News 2009年2月17日	90068に同じ
253	2009/4/23	90122	化学及血清療法研究所	フィブリノゲン加第ⅤⅢ因子 乾燥濃縮人活性化プロテインC 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅸ因子 乾燥スルホ化人免疫グロブリン 人血清アルブミン 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	人血清アルブミン	ヒト血液	日本	有効成分 添加物	有	有	無	ウイルス感染	Proc Natl Acad Sci USA 2008; 105: 14124- 14129	80995に同じ
												ウイルス感染	ProMED- mail2008102 8.3409	80995に同じ
												細菌感染	CDC/MMWR 2008; 57: 1145-1148	80995に同じ
												ウイルス感染	ProMED- mail2009012 9.0400	90003に同じ
												レトロウイルス	CDC/Travele rs' Health 2009年2月4 日	90003に同じ
												コレラ	CDC/Travele rs' Health 2009年2月4 日②	90003に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA/News 2009年2月17 日	90068に同じ
254	2009/4/23	90123	化学及血清療法研究所	乾燥濃縮人活性化プロテインC	プロテインC	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	ProMED- mail2008102 8.3409	80995に同じ
												細菌感染	CDC/MMWR 2008; 57: 1145-1148	80995に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	ProMED-mail20090129-0400	90003に同じ
												レトロウイルス	CDC/Travelers' Health 2009年2月4日	90003に同じ
												コレラ	CDC/Travelers' Health 2009年2月4日②	90003に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA/News 2009年2月17日	90068に同じ
												マラリア	CDC/MMWR 2009; 58: 229-2	近年、5番目のマラリア原虫として、サルマラリアであるPlasmodium knowlesiのヒトへの感染例がマレーシア及びその周辺において多数確認されており、人畜共通感染症の病原体として新興している可能性が示されている。
255	2009/4/23	90124	化学及血清療法研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	アボセルロブラスミン	ヒト血液	日本	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	Proc Natl Acad Sci USA 2008; 105: 14124-14129	80995に同じ
												ウイルス感染	ProMED-mail20081028.3409	80995に同じ
												細菌感染	CDC/MMWR 2008; 57: 1145-1148	80995に同じ
												ウイルス感染	ProMED-mail20090129.0400	90003に同じ
												レトロウイルス	CDC/Travelers' Health 2009年2月4日	90003に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												コレラ	CDC/Travelers' Health 2009年2月4日②	90003に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA/News 2009年2月17日	90068に同じ
												マラリア	CDC/MMWR 2009; 58: 229-2	90123に同じ
256	2009/4/23	90125	化学及血清療法研究	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	デオキシリボヌクレアーゼI	ウシ臍臓	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
257	2009/4/23	90126	化学及血清療法研究所	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン 乾燥ボツリヌスウマ抗毒素	リボヌクレアーゼA	ウシ臍臓	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
258	2009/4/23	90127	デンカ生研	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	ウシ血清	ウシ血液	製造中止により記載なし	製造工程	有	無	無	大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 第67回日本公衆衛生学会総会 13-019	90020に同じ
259	2009/4/23	90128	デンカ生研	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	ウシ胎児血清	ウシ胎児の血清	製造中止により記載なし	製造工程	有	無	無	大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 第67回日本公衆衛生学会総会 13-019	90020に同じ
260	2009/4/23	90129	デンカ生研	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	DNase I	ウシの臍臓	製造中止により記載なし	製造工程	有	無	無	大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 第67回日本公衆衛生学会総会 13-019	90020に同じ
261	2009/4/23	90130	デンカ生研	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	RNase A	ウシの臍臓	製造中止により記載なし	製造工程	有	無	無	大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 第67回日本公衆衛生学会総会 13-019	90020に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
262	2009/4/23	90131	デンカ生研	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	トリブシン	ブタの膵臓	製造中止により記載なし	製造工程	有	無	無	日本脳炎	第40回日本小児感染症学会総会・学術集会 F-13	90028に同じ
												エボラ出血	OIE press release 23Dec2008	80963に同じ
												インフルエンザ	日本ウイルス学会第56回学術集会 2F05	90028に同じ
												鳥インフルエンザ	日本ウイルス学会第56回学術集会 3F03	90028に同じ
												エボラ出血	WHO/WER 2009; 84: 49-56	90001に同じ
263	2009/4/23	90132	デンカ生研	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	GL37細胞	アフリカミドリザルの腎細胞由来	製造中止により記載なし	製造工程	有	無	無	原虫感染	日本寄生虫学会第64回西日本支部大会 32	昨年、新種のアメーバが分離され、Entamoeba nuttalliとして報告された。本原虫は動物実験で病原性を示し、Entamoeba spp.にE. histolytica以外の病原種の存在を示唆する知見である。インドネシアのカニクイザルの感染状況を調査した結果、糞便52検体中1検体で検出された。
264	2009/4/23	90133	塩野義製薬	テセロイキン(遺伝子組換え)インターフェロン ガンマ-1a(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	ヒト血液	アメリカ	添加物	有	無	無	ウイルス感染	WHO/EPR 2008年10月13日	81005に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA/Health Protection Report 3(7) 2009年2月20日	1996年に血漿を提供し、その6ヵ月後にvCJDを呈したドナーの血漿由来の第8因子製剤を使用した血友病患者について、この度、検死によりvCJD感染が報告された。血漿分画製剤によるTSE伝播の可能性を示唆する初の報告である。
265	2009/4/23	90134	塩野義製薬	テセロイキン(遺伝子組換え)インターフェロン ガンマ-1a(遺伝子組換え)	カザミノ酸	ウシ乳	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
266	2009/4/23	90135	塩野義製薬	テセロイキン(遺伝子組換え)インターフェロン ガンマ-1a(遺伝子組換え)	バグトリブリン	ウシ乳	オーストラリア、ニュージーランド、アメリカ	製造工程	無	無	無			
267	2009/4/23	90136	塩野義製薬	テセロイキン(遺伝子組換え)インターフェロン ガンマ-1a(遺伝子組換え)	パングレアチン	ブタ臓器抽出物	アメリカ、カナダ	製造工程	無	無	無			
268	2009/4/23	90137	わかもと製薬	ウロキナーゼ	ウロキナーゼ	人尿	中国	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	ProMED-mail20080911.2845	げっ歯類を宿主とし、これまではヒトには感染しないと考えられていたcardiovirusがヒト糞便検体から検出されている。ヒト感染例が確認された3文献をまとめている。
												レプトスピラ症	ProMED-mail20080922.2984	スリランカにて2008年8月末までに報告されたレプトスピラ症は3,825例であり、死亡例は117例であった。9月20日までに症例数は4,500例、死亡例は150例に増加した。
												ベスト	ProMED-mail20081001.3094	中国林芝地区の朗泉において肺ベストに感染した2例が死亡した。症例は35歳男性と38歳の妻。
												細菌性胃腸炎	ProMED-mail20081229.4095	中国、Hubeiの学校で生徒81人が感染した腸チフスのアウトブレイクは制御されたと地元当局が2008年12月26日に発表。
												髄膜炎菌感染	ProMED-mail20090211.0621	髄膜炎菌性髄膜炎が流行・拡大しているパングラディッシュに国境を接しているインド北東部において2,000例を超える髄膜炎菌性髄膜炎が発生し、165例以上が死亡している。
269	2009/4/23	90138	わかもと製薬	ウロキナーゼ	人血清アルブミン	人血液	日本	添加物	有	有	無	狂犬病	ProMED-mail20080826.2660	810131と同じ
												デング熱	ProMED-mail20080909.2821	フィリピン保健当局は、2008年1月から8月2日までにデング熱による死亡195例、症例19,658例が記録されたと9月1日に述べた。
												チクングニヤウイルス感染	ProMED-mail20080923.3010	インドにおいてチクングニヤ症例が増加しており、2008年は現在までに70,740例(2007年:59,536例)に達している。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												デング熱	ProMED-mail2008092 9.3078	インドにおいてデング熱の発生率は減少しており、2007年の症例数5,634例、死亡数69例に対し、2008年は現在までに症例数2,808例、死亡数38例である。
												チクングニヤウイルス感染	ProMED-mail2008101 4.3259	インドネシアのKepulauan RiauのPangkelにおいて村民5,200例はチクングニヤに感染し、またRiau ProvinceのHealth Serviceは、2008年10月13日時点で約300例がチクングニヤの影響を受けたと述べている。
												デング熱	N Engl J Med 359(14)1526-1527 Oct.2, 2008	90100に同じ
												鳥インフルエンザ	Wkly Epidemiol Rec 2008; 83: 357-364	2007年10-11月にパキスタンで発生したトリインフルエンザA(H5N1)の家族クラスターでは、25~32歳の兄弟3例が確定症例で、内1例が死亡し、2例は回復した。更に、同一家族内で感染可能性例1例、および無症候性の血清反応陽性例1例が検出された。1例目の症例のみが感染した家畜への接触歴があった。家族内での限定的なヒト-ヒト感染が発生したが、コミュニティへは拡大しなかった。
												コンゴ・クリミア出血熱	ProMED-mail2008102 7.3392	パキスタンのChest病院にクリミア・コンゴ出血熱症例3例が入院した。なお、最近2ヶ月間にクリミア・コンゴ出血熱症例数十例が入院し3例が死亡している。当該地区における過去2年間のクリミア・コンゴ出血熱感染症例は約100例である。
												マラリア	ProMED-mail2008111 1.3553	インドのベンガル州保健当局によると、2008年8月29日までの報告では、25,109例がベクター媒介疾患に罹患し、そのうち1,476例が熱帯熱マラリアであったが、その後発表された正確なデータでは、41,223例がベクター媒介疾患に罹患し、そのうち4,781例が熱帯熱マラリアであった。
												HIV	Nature 2008; 455: 609-611	2007年10月、中国におけるHIV感染者は70万人を記録。以前は感染有病率は0.04~0.07%と低推移を示していたが、2006年以降は8%と増加し、雲南、新疆は4~6万人、広西、広東は3~4万人を記録している。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												マラリア	ProMED-mail20081114.3591	シンガポール、フィリピン、マレーシア、タイでの Plasmodium knowlesi 原虫感染によるヒトマラリア感染に関する論文が紹介されている。
												日本脳炎	ProMED-mail20081115.3609	インド当局は BRD Med. Coll. Hosp 及び隣接する地区の病院において最近24時間のうちに小児4例が脳炎により死亡し、死亡例の合計は447例になったと述べた。2008年11月14日、脳炎の新規疑い例が14例入院し、122例が脳炎疑いで加療されており、2008年11月以降、脳炎症例が2,426例記録されている。(ただし、日本脳炎の確定診断はなされていない)
												細菌感染	ProMED-mail20081120.3661	90017に同じ
												ウイルス感染	IASR 2008; 29: 310-312	81005に同じ
												B型肝炎C型肝炎	ProMED-mail20081201.3773	パキスタン Sindh 地方、Badin において B 型及び C 型肝炎が増加している。Badin 及びその周辺の村では45%が罹患している。理由は、基本的な医療設備の不足、シリンジ使い回し、肝炎ウイルス検査無しの輸血と述べられている。
												デング熱	ProMED-mail20081207.3840	パキスタン、ラホールにおいて最近24時間にさらに17例がデング熱の診断を受けたと保健当局が述べた。ラホールにおけるアウトブレイクは継続しており、11月26日付 The Times によるとこれまでに1,149例が報告され、Punjab 州で報告された合計は1,219例である。
												チクングニヤウイルス感染	ProMED-mail20081222.4028	マレーシア保健当局は、2008年マレーシア全域においてチクングニヤ疑い例が4,000例に上ったと12月17日に述べた。
												デング熱	ProMED-mail20090105.0041	インドネシア、東カリマンタンでは、2008年1～11月にデング熱で101例が死亡し、この死亡率(172/10万人・月)は国内平均(20/10万人・月)の8倍である。カンボジアでは、2008年のデング熱罹患患者数及び死亡者数は大幅に減少し、2008年の現在までの死亡例は65例(2007年:407例)、罹患患者数は9,300例(2007年:39,851例)である。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												HIV	Lancet 2008; 372: 1791-1793	2007年、中国におけるHIV感染者70万人、AIDS発症者8万5千人と推定。
												チクングニヤウイルス感染	ProMED-mail2009011 2.0125	2008年末のチクングニヤのアウトブレイク以降、moneragala地方から報告された患者数は1300例。スリランカ保健当局によると、アウトブレイク発生直後の数日間に300~400例/日の患者が発生し、流行地域で約3000例の患者が確認された。
												チクングニヤウイルス感染	ProMED-mail2009011 4.0150	モルディブLaamu Atollの島々においてチクングニヤやデング熱のアウトブレイクが2008年12月頃から発生し、1,000人以上が罹患している。
												結核	ProMED-mail2009011 4.0151	81016に同じ
												デング熱	ProMED-mail2009011 9.0242	台湾において2008年1月1日~2009年1月6日の間に報告されたデング熱症例は1,419例であり、そのうち488例は検査で陽性であった。
												エボラ出血	WHO (2009年2月3日)	90019に同じ
												デング熱	ProMED-mail2009020 4.0487	シンガポール環境庁は、同国において2009年1月最初の3週間でデング熱感染症例509例が登録され、2008年同時期の症例数341例を超えていると報告。
												デング熱	ProMED-mail2009021 0.0603	マレーシアにおいて2009年の最初の5週間で国内のデング熱症例が倍増した。Selangorでは未だに症例数は多く、2009年2月6日時点で約6,623症例及び死亡18例が登録されている。
												デング熱	ProMED-mail2009021 6.0650	ベトナムでは2009年の現在までのデング熱症例は約3,000例と、前年同時期と比較して20.5%増加している。一方、タイでは2009年の現在までのデング熱症例は1,675例(死亡2例)であり、前年同時期(1,553例、死亡2例)に比べ若干増加している。
270	2009/4/24	90139	日本赤十字社	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	人血液	日本	有効成分	有	無	無	ウエストナイルウイルス	ABC Newsletter No.38 2008年10月17日	81068に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												HHV-8感染	Transfusion 2008; 48: Supplement 105A	81068に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	2008年プリオン 研究会 2008年8月 29-30日	81068に同じ
												クロイツフェル ト・ヤコブ病	J Neurol Neurosurg Psychiatry 2008; 79: 229-231	81068に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	Transfusion 2008; 48: Supplement 33A	81068に同じ
												クロイツフェル ト・ヤコブ病	Emerg Infect Dis 2009; 15: 265-271	孤発性CJD (sCJD)と医学的処置との関連性を 解明するために、日本における1999~2008年 の期間にCJDサーベイランス委員会に登録さ れた患者について分析した。その結果、sCJD 発症前に施行された医学的処置によりプリオン 病が感染した証拠はみつからなかった。
												異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	Blood, Prepublished online 2008 年7月22日	81005に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	2008年プリオン 研究会 2008年8月 29-30日 ポ スター11	81068に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	2008年プリオン 研究会 2008年8月 29-30日 ポ スター18	81068に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	PLoS ONE 2008; 3: e3017	81013に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA/News 2009年2月17日	90068 同じ
												HIV	Eurosurveillance 2008; 13(50): 19066	81068 同じ
												インフルエンザ	ProMED-mail20080825.2648	タミフル耐性型の「通常の」季節性インフルエンザが急速に拡大しており、南アフリカでは今年の冬(2008~2009年)のインフルエンザに効果がないおそれがある。WHOのデータによると同国でH1N1株に感染した107名に関する検査の結果、全員がタミフルに耐性の突然変異株を保有していた。2008年4月1日から8月20日に南半球の12カ国のH1N1インフルエンザ感染患者由来検体788例中242例(31%)がタミフル耐性に関係があるH274Y突然変異を有していた。
												ウイルス感染	BuaNews online 2008 年10月13日	南アフリカ、ヨハネスブルグで3名の死者を出したウイルスは、暫定的に西アフリカのラッサウイルスに近い、齧歯類媒介性アレナウイルスであると特定された。国立感染症研究所と保健省は共同で、このウイルスが体液を介してヒトからヒトに感染するため、「患者の看護に特別な予防的措置が必要である」との声明を発表した。3名の死因を確定するには更なる検査が必要である。
												ウイルス感染	ProMED-mail20090218.0669	ナイジェリアでは、2008年1月から12月にかけて、229人のラッサ熱感染疑い患者が報告され、30人が死亡している。また、2008年12月~2009年1月に、感染疑い患者及び感染確定患者はそれぞれ60%及び80%増加している。
												A型肝炎	Vox Sanguinis 2009; 96: 14-19	加熱及び高静水圧の物理的不活化処理法で4株のA型肝炎ウイルスの不活化を行ったところ、それぞれの処理はHAV感染性を3~5log10の範囲で低下させた。また、血液製剤のウイルス汚染に対する安全性を評価するのにもっとも適した株は、耐熱性のKRM238であった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												B型肝炎	J Med Virol 2008; 80: 1880-1884	1971～2005年の35年間に虎ノ門病院に来院した急性HBV感染患者153名および慢性HBV感染患者4277名について5年間毎のHBVジェノタイプ/サブジェノタイプを調べた。急性感染患者数は35年間で増加し続けた。慢性感染患者は1986～1990年が最大であった。ジェノタイプは急性感染患者と慢性感染患者で大きく異なった(A、B、C型:28.6%、10.3%、59.5% vs 3.0%、12.3%、84.5%)。最近では外国のサブジェノタイプB2/Baが増加する傾向がある。
												B型肝炎	Vox Sanguinis 2008; 95: 174-180	HBV DNA陽性かつ表面抗原(HBsAg)陰性オカルトHBV感染の検出感度を上げるために、HBV DNAとHBsAgを同時に濃縮する新規方法を開発した。二価金属存在下でpoly-L-lysineでコートした磁気ビーズを使用し、ウイルス凝集反応を増強させ、ウイルスを濃縮する方法により、HBV DNAとHBsAg量は、最高4～7倍に濃縮された。本方法により、EIAとHBV NATの感度が上昇し、HBsAg EIAを用いてオカルトHBV感染者40名のうち27名を検出することができた。
												B型肝炎	日本小児感染症学会第40回総会・学術集会 E-20	母親がHBsAg陰性かつ家族内に患者以外のHBVキャリアが存在する成人及び小児HBVキャリアである7家族を対象とし、HBV全遺伝子解析に基づく分子系統樹を用いて感染源を検索したところ、3家族で父親以外の感染源の可能性があり、祖母からの感染は分子疫学的に感染経路を証明できた。
												C型肝炎	Clin Infect Dis 2008; 47: 931-934	ニューヨーク市のEast Harlemのクリニックから18歳以上で血中HCV PCR陽性の吸引用麻薬常習者38名の鼻汁検体および吸引に使用したストローを入手し、血液およびHCV RNAの存在の有無を調べた。鼻汁検体28例(74%)、ストロー3例(8%)から血液が検出され、鼻汁検体5例(13%)、ストロー2例(5%)でHCV RNAが検出された。HCVウイルスの鼻腔内伝播のウイルス学的妥当性が示された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												C型肝炎	第70回 日本血液学会総会 2008年10月10-12日	再生不良性貧血の54歳女性で、初回輸血前検査はHCV抗体陰性、HCVコア蛋白陰性であったが、複数回輸血後、HCVコア蛋白が陽性化したため、遡及調査を開始した。保管検体の個別NATIにより、1検体からHCV-RNAを検出した。患者と献血者のHCV Core-E1-E2領域の塩基配列が一致した。日本で20プールNAT導入後、初めて確認された輸血によるHCV感染症例である。
												C型肝炎	日本血液事業学会第32回総会	1999年7月～2008年3月までにNATで検出された111本のHCV-RNA陽性検体のGenotype解析の結果、Genotype 2aが最も多く、1bと2bがほぼ同数であった。
												E型肝炎	AABB Annual Meeting and TXPO 2008	2005～2007年に北海道で実施したプールNATによるHEV-RNAスクリーニングの結果、献血者の約1/8,300はHEV-RNA陽性であった。ほとんどの献血者は動物内臓を摂取しており、無症候性であったが、ウイルス血症は数ヶ月間持続した。
												E型肝炎	Transfusion 2008; 48: 2568-2576	日本全国でALT高値のため献血不適となった献血者の血液検体に、HEVマーカー(HEV-RNA及び抗HEV抗体)が認められ、いずれのマーカーとも東日本の法が西より高かった。
												E型肝炎	Clin Infect Dis 2009; 48: 373-374	急性白血病の33歳の男性がE型肝炎を発症し、HEV遺伝子検査の結果、重複する時期に同じ病棟に入院していた別のE型肝炎患者から感染していたことが示唆された。
271	2009/4/24	90140	日本赤十字社	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	人血清アルブミン	人血清	日本	添加物	有	無	有	ウエストナイルウイルス	ABC Newsletter No.38 2008年10月17日	81068に同じ
												HHV-8感染	Transfusion 2008; 48: Supplement 105A	81068に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	2008年プリオン研究会 2008年8月29-30日	81068に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												クロイツフェルト・ヤコブ病	J Neurol Neurosurg Psychiatry 2008; 79: 229-231	81068に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion 2008; 48: Supplement 33A	81068に同じ
												クロイツフェルト・ヤコブ病	Emerg Infect Dis 2009; 15: 265-271	90139に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Blood, Prepublished online 2008年7月22日	81005に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	2008年プリオン研究会 2008年8月29-30日 ポスター11	81068に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	2008年プリオン研究会 2008年8月29-30日 ポスター18	81068に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS ONE 2008; 3: e3017	81013に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA/News 2009年2月17日	90068に同じ
												HIV	Eurosurveillance 2008; 13(50): 19066	81068に同じ
												インフルエンザ	ProMED-mail20080825.2648	90139に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	BuaNews online 2008年10月13日	90139に同じ
												ウイルス感染	ProMED-mail20090218.0669	90139に同じ
												A型肝炎	Vox Sanguinis 2009; 96: 14-19	90139に同じ
												B型肝炎	J Med Virol 2008; 80: 1880-1884	90139に同じ
												B型肝炎	Vox Sanguinis 2008; 95: 174-180	90139に同じ
												B型肝炎	日本小児感染症学会第40回総会・学術集会 E-20	90139に同じ
												C型肝炎	Clin Infect Dis 2008; 47: 931-934	90139に同じ
												C型肝炎	第70回日本血液学会総会 2008年10月10-12日	90139に同じ
												C型肝炎	日本血液事業学会第32回総会	90139に同じ
												E型肝炎	AABB Annual Meeting and TXPO 2008	90139に同じ
												E型肝炎	Transfusion 2008; 48: 2568-2576	90139に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												E型肝炎	Clin Infect Dis 2009; 48: 373-374	90139に同じ
272	2009/4/24	90141	ベネシス	乾燥抗HBs人免疫グロブリン ポリエチレングリコール処理抗HBs人免疫グロブリン	抗HBs抗体	人血液	米国	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	American Society of Hematology/ Press Releases 2008年8月28日	81013に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Cell 2008; 134: 757-768	810113に同じ
												ウイルス感染	Proc Natl Acad Sci USA 2008; 105: 14124-14129	80995に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS ONE 2008; 3: e3017	81013に同じ
												ウイルス感染	WHO/EPR 2008年10月13日	81005に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurology 2009; 8: 57-66	BSEプリオンに対するヒトの感受性についてSNPを解析した。PRNP遺伝子座はプリオン病のいくつかのマーカ―と全てのカテゴリーを通じてリスクに強く関連していた。疾病リスクへの主な寄与はPRNP多型コドン129であったが、別の近傍のSNPによってvCJDのリスク増大がもたらされた。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												コクシジオイデス症	GDC/MMWR 2009; 58: 105-109	カリフォルニア州におけるコクシジオイデス症の報告数及び入院数は2000~2006年の間毎年増加しており、1995~2000年の3倍以上(8/10万人)となった。米国のコクシジオイデス症全体の約60%を占めるアリゾナ州でも同様に、2006年には5,535例(91/10万人)と増加している。米国全体でも、1996年の1,697例から2006年には8,917例(6.97/10万人)に増加しており、流行地への訪問や居住歴のあるインフルエンザ様症状や肺炎、播種性感染症の患者では本症が鑑別されるべきである。
273	2009/4/24	90142	ベネシス	乾燥濃縮人血液凝固第IX因子	マウスモノクローナル抗体	マウス脾臓細胞と骨髄腫細胞のハイブリ	イギリス	製造工程	無	無	無			
274	2009/4/24	90143	ベネシス	乾燥濃縮人血液凝固第IX因子	ウサギIgG	ウサギ血液	日本	製造工程	無	無	無			
275	2009/4/24	90144	日本メジフィックス	放射性医薬品基準人血清アルブミン五酢酸テクネチウム(^{99m} Tc)注射液	人血清アルブミンジエチレントリアミン五酢酸テクネチウム(^{99m} Tc)	生物学的製剤基準人血清アルブミン	日本	有効成分	無	無	無			
276	2009/4/27	90145	バイエル薬品	イットリウム(⁹⁰ Y)イブリツモマブチウキセタン(遺伝子組換え)注射液調整用 インジウム(¹¹¹ I)イブリツモマブチウキセタン(遺伝子組換え)注射液調整用	ウシ乳加水分解物	ウシ乳	オーストラリア又はニュージーランド	製造工程	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J. Hosp. Infect. 2009; 72: 65-70	新規のプリオン不活化法として、Bacillus lentus サブチリシン遺伝子を変異させて得られたアルカリプロテアーゼ:MC3の報告。MC3はプロテナーゼKよりも高い分解能を示し、MC3消化の感染性マウス脳ホモジネート(iMBH)投与マウスの生存率は、非分解iMBH投与マウスと比較して極めて高かった。
277	2009/4/27	90146	バイエル薬品	インターフェロンベータ-1b(遺伝子組換え) イットリウム(⁹⁰ Y)イブリツモマブチウキセタン インジウム(¹¹¹ I)イブリツモマブチウキセタン	人血清アルブミン	ヒト血液	米国	添加物	有	無	無	ウイルス感染	PNAS 2008; 105: 14124-14129	新規ヒトカルジオウイルス7株についての報告。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	News-Medical.Net 2008 Dec 22	Amorfix Life Sciences社(カナダ)が開発した血漿中におけるvCJDプリオンタンパク質の検査法。脳ホモジネートを1/1,000,000まで希釈した検体を検出することに成功した。
												エボラ出血	WHO (2009年2月3日)	90019に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPS Weekly Report 2009; 43: 78	90183に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J. Hosp. Infect. 2009; 72: 65-70	90145に同じ
278	2009/4/27	90147	バイエル薬品	オクトコグ アルファ(遺伝子組換え)	加熱人血漿たん白	ヒト血液	米国	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	PNAS 2008; 105: 14124-14129	90146に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	News-Medical.Net 2008 Dec 22	90146に同じ
												エボラ出血	WHO (2009年2月3日)	90019に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPS Weekly Report 2009; 43: 78	90183に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J. Hosp. Infect. 2009; 72: 65-70	90145に同じ
279	2009/4/27	90148	バイエル薬品	オクトコグ アルファ(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	ヒト血液	米国	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	PNAS 2008; 105: 14124-14129	90146に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	News-Medical.Net 2008 Dec 22	90146に同じ
												エボラ出血	WHO (2009年2月3日)	90019に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPS Weekly Report 2009; 43: 78	90183に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J. Hosp. Infect. 2009; 72: 65-70	90145に同じ
280	2009/4/27	90149	バイエル薬品	オクトコグ アルファ(遺伝子組換え)	ウシインスリン	ウシ膵臓	米国	製造工程	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J. Hosp. Infect. 2009; 72: 65-70	90145に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
281	2009/4/27	90150	バイエル薬品	オクトコグアルファ(遺伝子組換え)	ヒトトランスフェリン	ヒト血液	米国	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	PNAS 2008; 105: 14124-14129	90146に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	News-Medical.Net 2008 Dec 22	90146に同じ
												エボラ出血	WHO (2009年2月3日)	90019に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPS Weekly Report 2009; 43: 78	90183に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J. Hosp. Infect. 2009; 72: 65-70	90145に同じ
282	2009/4/27	90151	日本製薬	乾燥抗破傷風人免疫グロブリン	破傷風抗毒素	人血液	米国	有効成分	有	無	無	B型肝炎	J Hepatol 2008; 48: 1022-1025	81039に同じ
												E型肝炎	Transfusion 2008; 48: 1368-1375	81038に同じ
												B型肝炎	Transfusion 2008; 48: 1602-1608	81038に同じ
												バルボウイルス	Lab Hematol 2007; 13: 34-38	81038に同じ
												E型肝炎	Vox Sanguinis 2008; 95: 94-100	81038に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPAweb February 17, 2009 February 17, 2009	90183に同じ
												B型肝炎	Transfusion Med. 2008; 18: 379-381	日本における、不顕性HBV感染者(HBsAg陰性)からの輸血によるB型肝炎感染に関する報告。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
283	2009/4/27	90152	日本製薬	乾燥抗HBs人免疫グロブリン	抗HBs抗体	人血液	米国	有効成分	有	無	無	B型肝炎	J Hepatol 2008; 48: 1022-1025	81039に同じ
												E型肝炎	Transfusion 2008; 48: 1368-1375	81038に同じ
												B型肝炎	Transfusion 2008; 48: 1602-1608	81038に同じ
												バルボウィルス	Lab Hematol 2007; 13: 34-38	81038に同じ
												E型肝炎	Vox Sanguinis 2008; 95: 94-100	81038に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPAweb February 17, 2009 February 17, 2009	90183に同じ
												B型肝炎	Transfusion Med. 2008; 18: 379-381	90151に同じ
284	2009/4/27	90153	エーザイ	モンテプラーゼ(遺伝子組換え)	抗不純蛋白質抗体	ウサギ血清	日本	添加物製造工程	無	無	無			
285	2009/4/27	90154	エーザイ	モンテプラーゼ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ胎児血清	オーストラリア、ニュージーランド、コスタリカ、ニカラグア、エルサルバドル、パナマ又はウルグアイ(MCB)	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
286	2009/4/27	90155	エーザイ	モンテブラーゼ(遺伝子組換え)	プラスミン	ウシ血清	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
287	2009/4/27	90156	エーザイ	モンテブラーゼ(遺伝子組換え)	遺伝子組み換え細胞	ベビーハムスターの腎臓	数10年前に樹立したマスターセルバンクに使用した細胞株のため原産国不明	製造工程	無	無	無			
288	2009/4/27	90157	エーザイ	モンテブラーゼ(遺伝子組換え)	トリプシン	ブタ膵臓	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
289	2009/4/27	90158	エーザイ	モンテブラーゼ(遺伝子組換え)	抗モンテブラーゼモノクローナル抗体	マウス腹水	日本	製造工程	無	無	無			
290	2009/4/28	90159	日本赤十字社	人免疫グロブリン	人免疫グロブリン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	ウエストナイルウイルス	ABC Newsletter No.38 2008年10月17日	81068に同じ
												HHV-8感染	Transfusion 2008; 48: Supplement 105A	81068に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	2008年プリオン研究会 2008年8月29-30日	81068に同じ
												クロイツフェルト・ヤコブ病	J Neurol Neurosurg Psychiatry 2008; 79: 229-231	81068に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion 2008; 48: Supplement 33A	81068に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												クロイツフェルト・ヤコブ病	Emerg Infect Dis 2009; 15: 265-271	90139に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Blood, Prepublished online 2008年7月22日	81005に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	2008年プリオン研究会 2008年8月29-30日 ポスター11	81068に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	2008年プリオン研究会 2008年8月29-30日 ポスター18	81068に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS ONE 2008; 3: e3017	81013に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA/News 2009年2月17日	90068に同じ
												HIV	Eurosurveillance 2008; 13(50): 19066	81068に同じ
												インフルエンザ	ProMED-mail20080825.2648	90139に同じ
												ウイルス感染	BuaNews online 2008年10月13日	90139に同じ
												ウイルス感染	ProMED-mail20090218.0669	90139に同じ
													Vox Sanguinis 2009; 96: 14-19	90139に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												B型肝炎	J Med Virol 2008; 80: 1880-1884	90139に同じ
												B型肝炎	Vox Sanguinis 2008; 95: 174-180	90139に同じ
												B型肝炎	日本小児感染症学会第40回総会・学術集会 E-20	90139に同じ
												C型肝炎	Clin Infect Dis 2008; 47: 931-934	90139に同じ
												C型肝炎	第70回 日本血液学会総会 2008年10月10-12日	90139に同じ
												C型肝炎	日本血液事業学会第32回総会	90139に同じ
												E型肝炎	AABB Annual Meeting and TXPO 2008	90139に同じ
												E型肝炎	Transfusion 2008; 48: 2568-2576	90139に同じ
												E型肝炎	Clin Infect Dis 2009; 48: 373-374	90139に同じ
291	2009/4/28	90160	日本赤十字社	pH4処理酸性人免疫グロブリン	pH4処理酸性人免疫グロブリン	人血液	日本	有効成分	有	無	有	ウエストナイルウイルス	ABC Newsletter No.38 2008年10月17日	81068に同じ
												HHV-8感染	Transfusion 2008; 48: Supplement 105A	81068に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	2008年プリオン研究会 2008年8月29-30日	81068に同じ
												クロイツフェルト・ヤコブ病	J Neurol Neurosurg Psychiatry 2008; 79: 229-231	81068に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion 2008; 48: Supplement 33A	81068に同じ
												クロイツフェルト・ヤコブ病	Emerg Infect Dis 2009; 15: 265-271	90139に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Blood, Prepublished online 2008年7月22日	81005に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	2008年プリオン研究会 2008年8月29-30日 ポスター11	81068に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	2008年プリオン研究会 2008年8月29-30日 ポスター18	81068に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS ONE 2008; 3: e3017	81013に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA/News 2009年2月17日	90068に同じ
												HIV	Eurosurveillance 2008; 13(50): 19066	81068に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												インフルエンザ	ProMED-mail20080825.2648	90139に同じ
												ウイルス感染	BuaNews online 2008年10月13日	90139に同じ
												ウイルス感染	ProMED-mail20090218.0669	90139に同じ
													Vox Sanguinis 2009; 96: 14-19	90139に同じ
												B型肝炎	J Med Virol 2008; 80: 1880-1884	90139に同じ
												B型肝炎	Vox Sanguinis 2008; 95: 174-199	90139に同じ
												B型肝炎	日本小児感染症学会第40回総会・学術集会 E-29	90139に同じ
												C型肝炎	Clin Infect Dis 2008; 47: 931-934	90139に同じ
												C型肝炎	第70回日本血液学会総会 2008年10月10-12日	90139に同じ
												C型肝炎	日本血液事業学会第32回総会	90139に同じ
												E型肝炎	AABB Annual Meeting and TXPO 2008	90139に同じ
												E型肝炎	Transfusion 2008; 48: 2568-2576	90139に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												巨型肝炎	Clin Infect Dis 2009; 48: 373-374	90139)と同じ
292	2009/4/28	90161	日本ポリオ研究所	経口生ポリオワクチン	ミドリザル腎臓細胞	ミドリザル腎臓	日本	製造工程	有	無	無	黄熱	Trinidad&Tobago Express 2009 Jan 12	トリニダード・トバゴで多数のサルの死亡が確認されている為、念のため黄熱ウイルスに対する予防接種を受けるよう呼びかけている。
												黄熱	Trinidad&Tobago Ministry of Health web 2009 Jan 19	トリニダード・トバゴ保健省は、森林で死亡して発見された2頭のサルの剖検の結果、黄熱ウイルスの感染が認められたことを報告した。過去に1988年、1995年、1999年にサルの黄熱感染が確認されているが、ヒトでの黄熱ウイルス感染はなかった。
293	2009/4/28	90162	日本ポリオ研究所	経口生ポリオワクチン	ウシ血清	ウシの血液	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	中毒	ProMED 2009 Jan 17	メキシコ、Zapotlanejo市でクレンブテロールによる中毒と確定診断された患者9例が報告された。発生源の精肉店は直ちに閉鎖され、現在、ウシの肝臓の売買が禁止されている。2008年にも21人のクレンブテロール中毒が発生している。
												感染	ProMED 2009 Jan 29	ドイツで2008年前半より"Blood sweating disease"で仔牛が死亡している。原因は不明である。この疾患はドイツ各地で発生しており、ババリアでは40頭の症例が確認されている。ミュンヘン大学のclinic for ruminantsも同様の症例を報告している。主に、生後2~3週間の仔牛が感染している。
294	2009/4/28	90163	日本ポリオ研究所	経口生ポリオワクチン	ラクトアルブミン	ウシの乳	ニュージーランド	添加物	有	無	無	中毒	ProMED 2009 Jan 17	90162)と同じ
												感染	ProMED 2009 Jan 29	90162)と同じ
295	2009/4/28	90164	日本ポリオ研究所	経口生ポリオワクチン	トリプシン	ブタの膵臓	アメリカ・カナダ	製造工程	有	無	無	エボラ出血	http://www.aflartnet.org/thenews/newsdesk/SP222378.htm	2009年1月23日、フィリピンにおいてブタからの感染と考えられるエボラウイルス・レストン株抗体陽性者が確認され、1月30日、さらに4例の抗体陽性者が確認されている。現在まで抗体陽性者の健康状態は良好であり、過去12ヶ月以内に主だった症状を呈していない。
												エボラ出血	GMA NEWS.TV 2009 Jan 30	2009年1月23日、フィリピンにおいてブタからの感染と考えられるエボラウイルス・レストン株抗体陽性者が確認された。サル以外で同ウイルスが確認されたのは初めてであり、ブタからヒトへの初の感染例である。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												サルモネラ	GMA NEWS-TV 2009 Feb 2	フィリピン・サマル州において2008年12月以降ブタでサルモネラ感染が流行し、84頭が死亡、約772頭が罹患した。その他25頭が感染疑いでと殺された。2月9日現在、感染は制御されたと、同地域の農業省職員が述べた。
												中毒	BBC News 2009 Feb 23	中国でクレプトテロールに汚染された豚肉の摂取により、70人以上が発病した。豚肉は広東省・広州の市場から流通したもので湖南省の農家で飼育されたもの。
296	2009/4/28	90165	大日本住友製薬	インターフェロン アルファ (NAMALWA)	ウシ血清由来成分	ウシ血液	ニュージーランド又はオーストラリア	製造工程	無	無	無			
297	2009/4/28	90166	大日本住友製薬	インターフェロン アルファ (NAMALWA)	ウシ乳由来成分	ウシ乳	ニュージーランド又はオーストラリア	製造工程	無	無	無			
298	2009/4/28	90167	大日本住友製薬	インターフェロン アルファ (NAMALWA)	ヒトリンパ芽球細胞樹立株ナマルバ細胞	ヒト細胞	—	製造工程	無	無	無			
299	2009/4/28	90168	大日本住友製薬	インターフェロン アルファ (NAMALWA)	ヒツジ血清由来成分	ヒツジ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
300	2009/4/28	90169	大日本住友製薬	インターフェロン アルファ (NAMALWA)	加熱人血漿たん白	人血液	米国	添加物	無	無	無			
301	2009/4/28	90170	大日本住友製薬	インターフェロン アルファ (NAMALWA)	鶏卵由来成分	鶏卵	—	製造工程	無	無	無			
302	2009/4/28	90171	大日本住友製薬	インターフェロン アルファ (NAMALWA)	マウスハイブリドーマ由来モノクローナル抗体	マウス細胞	日本	製造工程	無	無	無			
303	2009/4/28	90172	CSLベーリング	—	アプロチミン	ウシ肺	ウルグアイ、ニュージーランド	有効成分	無	無	無			
304	2009/4/28	90173	CSLベーリング	—	ヘパリン	ブタ腸粘膜	中国	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
305	2009/4/28	90174	CSL ベーリン グ	—	ウマコラーゲ ン	ウマ深部指 状屈筋腱	フランス、ド イツ、ベル ギー、イタ リア、オー ストリア、 米国、カナ ダ、ブラジ ル	支持体	無	無	無			
306	2009/4/28	90175	CSL ベーリン グ	—	トロンボブラ スチン	ウサギ脳	ニュージー ランド	製造工程	無	無	無			
307	2009/4/28	90176	CSL ベーリン グ	—	トロンピン画 分	ウシ血液	ニュージー ランド	製造工程	無	無	無			
308	2009/4/28	90177	CSL ベーリン グ	—	ヒトアルブミ ン	ヒト血液	米国、ドイ ツ、オース トリア	添加物	有	無	無	バベシア症	Clin Infect Dis 2009; 48: 25-30	81052に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	HPAweb February 17, 2009	90183に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	Vox Sanguinis 2009; 96: 270	1995年から3回/週でIVIG治療を受けていた61 歳女性は、1997年1月～1998年2月の期間に、 後にvCJDを発症した供血者由来の製剤を使用 していた。この女性の死亡後、剖検により脾 臓、リンパ節、脳内のプリオン蛋白を検査した が、検出されなかった。
309	2009/4/28	90178	CSL ベーリン グ	—	アンチトロン ピンⅢ	ヒト血液	米国、ドイ ツ、オース トリア	製造工程	有	無	無	バベシア症	Clin Infect Dis 2009; 48: 25-30	81052に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	HPAweb February 17, 2009	90183に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	Vox Sanguinis 2009; 96: 270	90177に同じ
310	2009/4/28	90179	CSL ベーリン グ	—	ヒトフィブリノ ゲン	ヒト血液	米国、ドイ ツ、オース トリア	有効成分	有	無	無	バベシア症	Clin Infect Dis 2009; 48: 25-30	81052に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPAweb February 17, 2009	90183に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2009; 96: 270	90177に同じ
311	2009/4/28	90180	高田製薬	ウリナスタチン	ウリナスタチン	ヒト尿	中国	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	Eurosurveillance 2008; 13: 1-2	アフリカ南部における初のアテナウイルス感染症例。ザンビアで発症した患者が南アフリカ・ヨハネスブルクに移送されたが発症10日後に死亡。移送した救急隊員1名及びヨハネスブルクで看護を担当した看護婦1名も約1週間の潜伏期間の後発症し死亡。
												ウイルス感染	ProMED-mail20090129.0400	90003に同じ
312	2009/4/28	90181	高田製薬	ウリナスタチン	ウリナスタチン	ヒト尿	—	有効成分	無	無	無			
313	2009/4/30	90182	メルスモン製薬	胎盤絨毛分解物	胎盤絨毛分解物	ヒト胎盤	日本	有効成分	無	無	無			
314	2009/4/30	90183	バクスター	人血清アルブミン	人血清アルブミン	人血漿	米国	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPAweb February 17, 2009	1996年に血漿を提供し、その6ヵ月後にvCJDを呈したドナーの血漿由来の第8因子製剤を使用した血友病患者について、この度、検死によりvCJD感染が報告された。血漿分画製剤によるTSE伝播の可能性を示唆する初の報告である。
315	2009/5/1	90184	日本赤十字社	新鮮凍結人血漿	新鮮凍結人血漿	人血液	日本	有効成分	有	有	有	細菌感染	Am J Infect Control 2008; 36: 602	減量法として両耳の上部耳介軟骨に置き鍼治療(Stapling)を受けた16歳の女性が、2週間後に左耳の鍼周囲の紅斑および圧痛を呈した。膿瘍ドレナージ検体の培養および感受性試験の結果、両耳で著しい緑膿菌の生育が認められた。21日間の経ロシプロフロキサシン投与により回復した。外耳軟骨は、血流に乏しく特に感染しやすい。耳鍼が危険な緑膿菌感染を起こす可能性があることを医師は認識するべきである。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												レンサ球菌感染	Transfusion 2008; 48: 2177-2183	米国。ルーチンの細菌培養スクリーニングを実施したプール血小板の輸血を受けた患者が、C群連鎖球菌感染症により死亡した。遡及調査の結果、無症候性の供血者が原因と考えられた。現在の検査法の限界を示す報告。
												細菌感染	Transfusion 2008; 48: 2348-2355	全血血小板の細菌汚染リスクを低減させるためには、初流血除去及び細菌培養によるスクリーニングが有効な方法であることを示す報告。
												感染	BMJ 2008; 337: a2622	欧州における2006年の感染症の発生報告はクラミジアが最も多く、以下、ランブル鞭毛虫症、カンピロバクター症、サルモネラ症、結核、流行性耳下腺炎、淋病、C型肝炎、侵襲性肺炎球菌疾患、HIVの順であった。
												感染	http://www.fda.gov/cber/blood/fatal07.pdf	2007年度のCBERに報告された供血後及び輸血後の死亡例概要。受血者76件、供血者17件の死亡報告。受血者死亡の内訳は、52件が輸血関連のもの、11件が輸血関連性否定できないもの、13件が輸血と関連しないものであった。
												バベシア症	AABB Annual Meeting and TXPO 2008- 2	輸血を介したバベシア症死亡例の報告。1998年の1例以降しばらく無かったが、2006年1～10月にはFDAに5例が報告された。生物学的製品逸脱報告サマリーでは、過去10年間にバベシア症関連報告が68件あり、近年この報告が増加傾向にあることは、バベシア症伝播に係る輸血関連リスクが増加していることを示している。
												アメリカトリパノソーマ症	Transfusion 2008; 48: 1862-1868	スペイン、カタルーニャ血液銀行は、高リスク供血者におけるシャーガス病スクリーニング計画を施行し、供血者集団でTrypanosoma cruzi (T. cruzi) 感染の血清学的陽性率を調査した。その結果、全体の陽性率は0.62%(1770名中11名)で、最も陽性率が高かったのはボリビア人であった(10.2%)。陽性者11名中1名は、シャーガス病流行地域に数年間滞在したことのあるスペイン人であった。非流行国の高リスク供血者にT. cruziスクリーニング検査を実施する必要性がある。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												アメリカ・トリパノソーマ症	AABB Annual Meeting and TXPO 2008-3	米国で2007年から開始された供血者に対する T. cruziスクリーニング検査の結果、2007年1月29日～2008年1月28日の陽性率は1/30,000であったが、受血者には明白な感染症例はなかった。最も陽性率が高い地域はフロリダ南部であった。
												マラリア	Emerg Infect Dis 2008; 14: 1434-1436	2007年にマレー半島でフィンランドの旅行者が、通常はサルにおけるマラリアの原因となる二日熱マラリア原虫に感染した。二日熱マラリア原虫はヒトマラリアを引き起こす第5のマラリア原虫種として確立された。この疾病は生命を脅かす危険があり、臨床医と臨床検査技師は旅行者においてこの病原体を更に注意すべきである。
												マラリア	AABB Annual Meeting and TXPO 2008-4	オーストラリア赤十字は2005年7月から、マラリア感染のリスクのある供血者に対し、従来の医療歴・渡航歴の収集から、リスクへの暴露を特定した時から最低4ヶ月間のマラリア抗体のスクリーニングを実施する代替戦略を導入した結果、既存の供血者に由来する輸血可能な製剤の製造効率は著しく向上し、輸血伝播マラリア症例の報告もなかった。
												マラリア	Am J Trop Med Hyg 2009; 80: 215-217	1997年より韓国軍はヒドロキシクロロキン及びプリマキンを用いた予防的化学療法を実施し、マラリア患者の急増を防ぐことができたが、調査登録患者484名中2名にクロロキン耐性 Plasmodium vivaxを確認した。
												リケッチア症	CDC/MMWR 2008; 57: 1145-1148	80995に同じ
												リケッチア症	JAMA 2008; 300: 2263-2270	81005に同じ
												ウエストナイルウイルス	ABC Newsletter No.38 2008年10月17日	81068に同じ
												HHV-8感染	Transfusion 2008; 48: Supplement 105A	81068に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	2008年プリオン研究会 2008年8月29-30日	81068に同じ
												クロイツフェルト・ヤコブ病	J Neurol Neurosurg Psychiatry 2008; 79: 229-231	81068に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion 2008; 48: Supplement 33A	81068に同じ
												クロイツフェルト・ヤコブ病	Emerg Infect Dis 2009; 15: 265-271	90139に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Blood, Prepublished online 2008年7月22日	81005に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	2008年プリオン研究会 2008年8月29-30日 ポスター11	81068に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	2008年プリオン研究会 2008年8月29-30日 ポスター18	81068に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS ONE 2008; 3: e3017	81013に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA/News 2009年2月17日	90068に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												HIV	Eurosurveillance 2008; 13(50): 19066	81068 と同じ
												インフルエンザ	ProMED-mail20080825.2648	90139 と同じ
												ウイルス感染	BuaNews online 2008年10月13日	90139 と同じ
												ウイルス感染	ProMED-mail20090218.0669	90139 と同じ
												A型肝炎	Vox Sanguinis 2009; 96: 14-19	90139 と同じ
												B型肝炎	J Med Virol 2008; 80: 1880-1884	90139 と同じ
												B型肝炎	Vox Sanguinis 2008; 95: 174-180	90139 と同じ
												B型肝炎	日本小児感染症学会第40回総会・学術集会 E-20	90139 と同じ
												C型肝炎	Clin Infect Dis 2008; 47: 931-934	90139 と同じ
												C型肝炎	第70回 日本血液学会総会 2008年10月10-12日	90139 と同じ
												C型肝炎	日本血液事業学会第32回総会	90139 と同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												E型肝炎	AABB Annual Meeting and TXPO 2008	90139に同じ
												E型肝炎	Transfusion 2008; 48: 2568-2576	90139に同じ
												E型肝炎	Clin Infect Dis 2009; 48: 373-374	90139に同じ
316	2009/5/1	90185	日本赤十字社	人血小板濃厚液	人血小板濃厚液	人血液	日本	有効成分	有	有	有	細菌感染	Am J Infect Control 2008; 36: 602	90184に同じ
												レンサ球菌感染	Transfusion 2008; 48: 2177-2183	90184に同じ
												細菌感染	Transfusion 2008; 48: 2348-2355	90184に同じ
												感染	BMJ 2008; 337: a2622	90184に同じ
												感染	http://www.fda.gov/cber/blood/fatal07.pdf	90184に同じ
												バベシア症	AABB Annual Meeting and TXPO 2008-2	90184に同じ
												アメリカ・トリパノソーマ症	Transfusion 2008; 48: 1862-1868	90184に同じ
												アメリカ・トリパノソーマ症	AABB Annual Meeting and TXPO 2008-3	90184に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												マラリア	Emerg Infect Dis 2008; 14: 1434-1436	90184に同じ
												マラリア	AABB Annual Meeting and TXPO 2008-4	90184に同じ
												マラリア	Am J Trop Med Hyg 2009; 80: 215-217	90184に同じ
												リケッチア症	CDC/MMWR 2008; 57: 1145-1148	80995に同じ
												リケッチア症	JAMA 2008; 300: 2263-2270	81005に同じ
												ウエストナイルウイルス	ABC Newsletter No.38 2008年10月17日	81068に同じ
												HHV-8感染	Transfusion 2008; 48: Supplement 105A	81068に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	2008年プリオン研究会 2008年8月29-30日	81068に同じ
												クロイツフェルト・ヤコブ病	J Neurol Neurosurg Psychiatry 2008; 79: 229-231	81068に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion 2008; 48: Supplement 33A	81068に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												クロイツフェルト・ヤコブ病	Emerg Infect Dis 2009; 15: 265-271	90139に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Blood, Prepublished online 2008年7月22日	81005に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	2008年プリオン研究会 2008年8月29-30日 ポスター11	81068に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	2008年プリオン研究会 2008年8月29-30日 ポスター18	81068に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS ONE 2008; 3: e3017	81013に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA/News 2009年2月17日	90068に同じ
												HIV	Eurosurveillance 2008; 13(50): 19066	81068に同じ
												インフルエンザ	ProMED-mail20080825.2648	90139に同じ
												ウイルス感染	BuaNews online 2008年10月13日	90139に同じ
												ウイルス感染	ProMED-mail20090218.0669	90139に同じ
													Vox Sanguinis 2009; 96: 14-	90139に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												B型肝炎	J Med Virol 2008; 80: 1880-1884	90139に同じ
												B型肝炎	Vox Sanguinis 2008; 95: 174-180	90139に同じ
												B型肝炎	日本小児感染症学会第40回総会・学術集会 E-20	90139に同じ
												C型肝炎	Clin Infect Dis 2008; 47: 931-934	90139に同じ
												C型肝炎	第70回 日本血液学会総会 2008年10月10-12日	90139に同じ
												C型肝炎	日本血液事業学会第32回総会	90139に同じ
												E型肝炎	AABB Annual Meeting and TXPO 2008	90139に同じ
												E型肝炎	Transfusion 2008; 48: 2568-2576	90139に同じ
												E型肝炎	Clin Infect Dis 2009; 48: 373-374	90139に同じ
317	2009/5/11	90186	東和薬品	ウリナスタチンの注射液	ウリナスタチン	ヒト尿抽出物	中国	有効成分	有	無	無	ニパウイルス	Emerg Infect Dis 2008; 14: 1974-1976	中国で2004~2007年に自然生息のコウモリを捕獲し、血清、咽頭、糞便におけるニパウイルス遺伝子及び糖タンパクの検出を行った。その結果、692標本中33標本(23匹中9匹)で陽性を示した。特に、雲南省からのホオヒゲコウモリの抗体が突出していた。
318	2009/5/15	90187	ウイス	ポリフィマーナトリウム	ポリフィマーナトリウム	ブタ血液	オランダ	有効成分	有	無	無	エボラ出血	WHO/EPR 2009年3月31日	90056に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
319	2009/5/20	90188	富士フイルムRIファーマ	テクネチウム人血清アルブミン(⁹⁹ mTc)	テクネチウム人血清アルブミン(⁹⁹ mTc)	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	ウイルス性脳炎	CDC/MMWR 2009; 58: 4-7	米国ウエストバージニアで妊婦における初めてのラクロス脳炎ウイルス(LACV)感染が見つかり、その後、分娩時の臍帯血からLACV抗体が検出され垂直感染が疑われたが、出生後6ヶ月までLACV感染兆候は見られていない。親が子の血清検体採取を拒否しており感染は確定できていない。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPAweb February 17, 2009	90183に同じ
												黄熱	ProMED-mail2009040 2.1217	サンパウロ奥地において2009年2月より黄熱が流行しており、その中で母子感染が確認された。初の黄熱の母子感染報告である。
320	2009/5/22	90189	ベネシス	乾燥濃縮人血液凝固第IX因子	血液凝固第IX因子	人血液	日本	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	WHO/EPR 2008年10月13日	81005に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurology 2009; 8: 57-66	90141に同じ
												コクシジオイデス症	CDC/MMWR 2009; 58: 105-109	90141に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2009; 96: 270	90177に同じ
321	2009/5/22	90190	ベネシス	トロンピン	トロンピン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	WHO/EPR 2008年10月13日	81005に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurology 2009; 8: 57-66	90141に同じ
												コクシジオイデス症	CDC/MMWR 2009; 58: 105-109	90141に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2009; 96: 270	90177に同じ